

〔編集後記〕

「社会科学ジャーナル」第20号(2)を環太平洋地域の学際的、総合的研究の成果で飾れることは、関係者一同心から慶賀したい。学際協力を基調とするシンポジウムの参加者は、報告、討論、聴講のいずれの形式であったかを問わず、各専門分野における最新の知識と情報の交換ならびに相互理解の深化をえて、今後それぞれの研究、実践活動に多大の寄与がえられたものと思う。それらの成果は近い将来いっそう多彩で豊富な結実をもたらすであろう。

異なる専門分野間の学際協力は早くも星霜二十有余年を重ねた当研究所活動を終始貫いた努力目標であった。とりわけ洋の東西を網羅した多数の研究者による寄稿はわが国際基督教大学建学の理念達成に貢献するうえで意義深いことといえよう。本誌第20号刊行を記念して既刊各号の総目次を収録した。創刊号、4号、5号、8号、10号を除きなお残部の在庫がみられるので、頒布の御要望に応じることができる。

わが国内外の現況を顧るとき、環太平洋地域の学際的、総合的調査研究は今後ますます重要度を増すと思われる。すでに先鞭をつけたシンポジウム開催に引続き、当研究所では1981年度豪日交流基金学術研究調査奨励金交付を受けて、鋭意研究を続行中である。それらの成果を踏まえてさらに他地域を網羅する学際的、総合的調査研究の展開にたゆまぬ努力を累積していきたい。諸賢の御尽力を重ねて懇請するところである。

(大森 記)